

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	174	道路台帳索引番号	I-24	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 38 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	神山 38-1 号橋
施設の所在地	武田字西海道 101 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(0.9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.7		幅員(車道幅員)	4.9
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	175	道路台帳索引番号	K-29	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 10 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	桜木上橋
施設の所在地	上条北割字桜木 1980 番地 18 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(1)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.5		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	176	道路台帳索引番号	L-30	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 18 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	桜木中橋
施設の所在地	上条北割字桜木 2163 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(1)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.5		幅員(車道幅員)	4.6
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	177	道路台帳索引番号	L-30	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 20 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	桜木下橋
施設の所在地	上条北割字桜木 2167 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(1)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.0		幅員(車道幅員)	4.8
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	床版に軽微な損傷はあるが、概ね健全である。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	178	道路台帳索引番号	J-33	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 22 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	鎌倉橋
施設の所在地	上条北割字鎌倉 3965 番地 3 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)	橋下条件	御坊沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.3		幅員(車道幅員)	3.3
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式		海岸からの距離	—	

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	A1橋台、A2橋台における橋座面の漏水が見られ、A2橋台においては錆汁の混入も見られる。 前回点検時と比べ、A1橋台、A2橋台ともに漏水範囲は変化していないと思われる。 橋座面の漏水は伸縮装置が設置されていないことに起因するものと想定されるため、状況に応じて対応を施す必要がある。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 9 年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	179	道路台帳索引番号	L-31	施設管理者	韮崎市
路線名	市道旭 24 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	山口下橋
施設の所在地	上条北割字鎌倉 2738 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	鋼橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	御坊沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.4		幅員(車道幅員)	4.8
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状態 等 の 概要	点検診断日	令和3年10月	
	調査結果	・G3 桁の上フランジなどに広く表面錆が生じており、張出床版部には広く表面的な剥離が見られ、軽微な鉄筋露出も発生している。これらは水切りのない張出床版端部から伝わってくる雨水の影響を受けたものと考えられるため、張出部には水切りを設置しておくことが望ましい。・橋座面では伸縮部から漏水している形跡があり、橋座の土砂堆積の影響も受けて、支承のアンカーナットには表面錆が生じている。今後も腐食が進行することが予想されるため、伸縮部の止水対策と沓座の土砂清掃を行い、腐食した支承の塗装を行っておくことが望ましい。また、ア	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	180	道路台帳索引番号	L-30	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 26 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	いもじや橋
施設の所在地	上条北割字鎌倉 2748 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.3		幅員(車道幅員)	6.0
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。路面の凹凸は予防保全から、補修が必要である。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	181	道路台帳索引番号	M-31	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 28 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	本沢橋
施設の所在地	上条北割字宮下 3053 番地先	起点からの距離		建設年度	1973
供用年度	1973	種別	I 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.7				幅員(車道幅員)		3.6		
	施設の構造等	上部工形式									
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	重力式橋台				基礎型式				
	橋脚工形式					海岸からの距離		—			
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月									
	調査結果	支承の損傷は、前回点検時と比べ進行はしていないが、計画的に対処することと、維持管理の中で「ゆるみ」の対応をする必要がある。・。									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)		道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容										
	実施予定時期	令和9年度									
	対策費用 (百万円:概算)	1									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5				
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検				
備考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	182	道路台帳索引番号	L-31	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 32 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	山口中橋
施設の所在地	上条北割字鎌倉 3927 番地 7 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 桁橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	御坊沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.4		幅員(車道幅員)	4.6
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月				
	調査結果	A2橋台に沈下・傾斜の損傷が見られる。A1橋台に傾斜していることにより、落橋に至ることはないと考えられる。そのため、判定区分「E1・Ⅳ」ではあるが、道路橋の健全性としては「C2・Ⅲ」が妥当であると判断する。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期処置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度				
	内容					
	実施予定時期	令和9年				
	対策費用 (百万円:概算)	100				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	14.9					0.5				
対策の内容・実施時期	設計点検					定期点検	架替			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	183	道路台帳索引番号	L-32	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 34 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	宮下中橋
施設の所在地	上条北割字鎌倉 3875 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(1)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.6		幅員(車道幅員)	7.9
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	床版に漏水・遊離石灰が見られ、部分的にはつららも確認できることから防水機能の強化が必要である。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	184	道路台帳索引番号	N-32	施設管理者	葦崎市
路線名	市道旭 35 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	築地橋
施設の所在地	上条東割字築地 3143 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	I 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.9				幅員(車道幅員)		3.5		
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)		別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり		
			支承型式		別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり		
		橋台工形式	重力式橋台				基礎型式				
		橋脚工形式					海岸からの距離		—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月									
	調査結果	主桁の遊間異常は、桁に想定外の力が作用していることとなるため、詳細な調査及び対策を行う必要がある。 支承の土砂詰りは維持管理の中で撤去されたい。 伸縮装置における路面の凹凸等の損傷は通行の安全性に影響を及ぼすため、早期に対策を行う必要がある。									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)		道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容										
	実施予定時期	令和9年度									
	対策費用 (百万円:概算)	1									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5				
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検				
備考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	185	道路台帳索引番号	L-33	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 37 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	小曾根上橋
施設の所在地	上条中割字小曾根 2086 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.5		幅員(車道幅員)	6.6
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	186	道路台帳索引番号	L-34	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 40 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	小曾根下橋
施設の所在地	上条中割字鍛冶屋 2025 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.4		幅員(車道幅員)	3.9
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	損傷はなく、全体的に健全である。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	187	道路台帳索引番号	L-34	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 47 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	かじや上橋
施設の所在地	上条中割字小曾根 2044 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.6		幅員(車道幅員)	7.5
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	路上、下部構造に軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。 地覆に鉄筋露出を伴う剥離があり、鉄筋が剥き出しの状態であるため、通行の安全性の観点から早期に補修することが望ましい。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	188	道路台帳索引番号	L-35	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 51 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	かじや下橋
施設の所在地	上条中割字鍛冶屋 1871 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.6		幅員(車道幅員)	4.8
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 5 年 12 月				
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容					
	実施予定時期	令和 10 年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0.5				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	189	道路台帳索引番号	N-35	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 52 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	仲山橋
施設の所在地	上条中割字竹之花 17 番地先	起点からの距離		建設年度	1973
供用年度	1973	種別	I 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	大門沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		8.2			幅員(車道幅員)		3.6		
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)		別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり		
			支承型式		別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり		
		橋台工形式	重力式橋台			基礎型式					
		橋脚工形式				海岸からの距離		—			
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 4 年 11 月									
	調査結果	主桁 G-2 桁が A2橋台側で桁端と橋台パラペットが接触している。パラペットにひびわれは発生していないが、遊間異常の原因に対して、全体構造系に影響を及ぼさないことの確認を目的とした詳細調査を行うことが望ましい。また、伸縮装置の不備により、主桁端部、沓座回りを中心に損傷が進んでいる。予防保全の観点から早期の対策が望ましい。									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)		道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度									
	内容										
	実施予定時期	令和9年度									
	対策費用 (百万円:概算)	1									
		令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5				
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	190	道路台帳索引番号	L-36	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 57 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	山寺橋
施設の所在地	上条南割字上寺 1984 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.5		幅員(車道幅員)	4.4
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	191	道路台帳索引番号	L-36	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 59 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	山寺下橋
施設の所在地	上条南割字山田 2288 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.5		幅員(車道幅員)	4.4
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	192	道路台帳索引番号	M-39	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 70 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	旭団地橋
施設の所在地	上条南割字外御勅使 3314 番地	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.2		幅員(車道幅員)	5.1
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	舗装、防護柵、地覆、床版に損傷が見られるがいずれも軽微であるため、経過観察とする。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	193	道路台帳索引番号	K-32	施設管理者	韮崎市
路線名	市道旭 77 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	旭 77-1 号橋
施設の所在地	上条北割字鎌倉 3946 番地 9 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	I 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	御坊沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.5		幅員(車道幅員)	3.5
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	ゴム支承の変形や割れが著しく、支承としての機能を満足していない。また、アンカーボルトの緩みや飛び出しが著しい箇所があり、アンカーとしての定着長を満足していないと判断できる。 早期に対策をする必要がある。 排水ますで土砂詰まりがあるため、維持工事に対応する必要がある。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	194	道路台帳索引番号	O-34	施設管理者	韮崎市
路線名	市道大草 32 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	前田橋
施設の所在地	下条西割字川崎 436 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	1964
供用年度	1964	種別	I 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	10t	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.5		幅員(車道幅員)	3.0
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	伸縮装置の目地材脱落により漏水が確認されており、これが支承及び主桁端部に悪影響を与えているため、早期に対策を施す必要がある。 橋台の不法占用、支承及び排水ますの土砂詰まりは維持工事で対応する必要がある。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	195	道路台帳索引番号	N-35	施設管理者	荊崎市
路線名	市道大草 32 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	漆田橋
施設の所在地	上条東割字羽根前 876- 1 番地	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	I 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	大門沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.9		幅員(車道幅員)	3.0
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	伸縮装置に起因する漏水が見られる。主桁端部および支承保護の観点から状況に応じて対策を行う必要がある。支承部の土砂詰まりは維持工事に対応する必要がある。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	196	道路台帳索引番号	Q-36	施設管理者	荊崎市
路線名	市道大草 46 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	丸林橋
施設の所在地	下条中割字清水 688 番地先	起点からの距離		建設年度	1990
供用年度	1990	種別	I 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.9		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	路面のひびわれは幅は大きくないものの亀甲状になりつつあるため、経過観察しながら状況に応じて対策を行う必要がある。また、伸縮装置の排水機能不備による漏水が確認できる。これは主桁端部および支承回りの損傷を助長させるため、状況に応じて補修する必要がある。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	198	道路台帳索引番号	P-30	施設管理者	荊崎市
路線名	市道龍岡 14 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	古川 6 号橋
施設の所在地	若尾新田字供養塚 929 番地 3 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.7		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月				
	調査結果	伸縮装置の後打ちコンクリートは両側ともに多くのひびわれが見られる。 ひびわれ幅は小さいが本数が多く、今後経過観察を行っていく中で注視すること。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度				
	内容					
	実施予定時期	令和9年度				
	対策費用 (百万円:概算)	1				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	199	道路台帳索引番号	R-33	施設管理者	韮崎市
路線名	市道龍岡 18 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	力石上橋
施設の所在地	下条東割字力石	起点からの距離		建設年度	2001
供用年度	2001	種別	PC 橋	型式	桁橋(T 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	古川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	40.6				幅員(車道幅員)		6.2		
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(T 桁)								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
			支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり			
		橋台工形式	逆T式橋台				基礎型式				
		橋脚工形式					海岸からの距離		—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 7 年 11 月									
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、主桁の落書き、横桁の鳥の巣、排水ますの土砂詰まりは維持工事による対応が望ましい。									
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。								
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度									
	内容										
	実施予定時期	令和 12 年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					0.5	
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	200	道路台帳索引番号	R-33	施設管理者	葦崎市
路線名	市道龍岡 18 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	力石中橋
施設の所在地	下条東割字力石 1406 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.8				幅員(車道幅員)		5.0		
	施設の構造等	上部工形式									
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	重力式橋台				基礎型式				
	橋脚工形式					海岸からの距離		—			
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月									
	調査結果	床版に生じている損傷の程度は軽微であるため。状況に応じて補修する必要がある。また、水路側壁(終点側)に生じているひびわれは、幅が大きいので早期に補修する必要がある。									
	健全性の診断結果	I (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容										
	実施予定時期	令和9年度									
	対策費用 (百万円:概算)	1									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5				
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検				
備 考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	201	道路台帳索引番号	U-38	施設管理者	葦崎市
路線名	市道龍岡 18 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	堀切橋
施設の所在地	竜岡町下条南割 1734 番地先	起点からの距離		建設年度	1978
供用年度	1978	種別	I 桁橋 + 箱桁橋	型式	桁橋(箱桁(合成))
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	御勅使川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	82.3				幅員(車道幅員)		9.9		
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(箱桁(合成))								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式					基礎型式				
	橋脚工形式					海岸からの距離		—			
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月									
	調査結果	P1 橋脚、A2 橋台の旧橋側の沓座モルタルに変形・欠損が見られる。前回点検時と比べ損傷の進行はないが、補修を行うことが望ましい。 また P1 橋脚の支承部にアンカーボルトのゆるみも見られ、維持工事で補修する必要がある。									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)		道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度 ～ 令和12年度									
	内容	補修工事を実施。 5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	実施済(令和3年)									
	対策費用 (百万円:概算)	1									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5				
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検				
備 考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。 ○令和3年度補修完了											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	202	道路台帳索引番号	Q-32	施設管理者	荏崎市
路線名	市道龍岡 19 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	戸尻坂下上橋
施設の所在地	下条東割字力石 1742 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	古川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.6		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおりに	塗装使用の有無	別紙図面のとおりに
			支承型式	別紙図面のとおりに	落橋防止の有無	別紙図面のとおりに
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月				
	調査結果	地覆において防護柵支柱部分よりひびわれが見られるが、安全性に問題は無いため、経過観察しながら損傷進行時に対処すればよい。 排水ますの土砂詰まりは維持工事に対応する必要がある。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度				
	内容	5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和9年度				
	対策費用 (百万円:概算)	1				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覧
(個票)

個別施設整理番号	203	道路台帳索引番号	R-33	施設管理者	荏崎市
路線名	市道龍岡 20 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	阿寺沢橋
施設の所在地	下条東割字力石 1397 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.2		幅員(車道幅員)	8.2
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 4 年 11 月				
	調査結果	床版に建設当初のジャンカが見られるが、損傷程度は軽微であるため経過観察でよい。 全体的に損傷も無く健全な状況であると判断できる。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容	5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和9年度				
	対策費用 (百万円:概算)	1				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	204	道路台帳索引番号	R-33	施設管理者	荊崎市
路線名	市道龍岡 20 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	力石下橋
施設の所在地	下条東割字力石 252 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	2001
供用年度	2001	種別	PC 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	A 活荷重	橋下条件	古川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	17.7		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月				
	調査結果	床版間詰部から若干の錆汁混じりの遊離石灰の析出が見られる。緊急を要するものではないものの、横締め PC 鋼材に影響を及ぼす可能性もあるため、状況に応じて対策を行う必要がある。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度				
	内容	5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和9年度				
	対策費用 (百万円:概算)	1				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	205	道路台帳索引番号	Q-36	施設管理者	葦崎市
路線名	市道龍岡 35 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	石宮橋
施設の所在地	下条南割字石宮 731 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	1975
供用年度	1975	種別	I 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	23.4		幅員(車道幅員)	4.3
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	支承部に腐食、防食機能の劣化及び土砂詰まりが見られる。土砂詰まりにより損傷を更に進行させる可能性があるため、維持工事で対応する必要がある。 主桁ボルトのゆるみが確認されている。これは F11T の遅れ破壊によるものであり、今後他のボルトでも同様の症状が進むことが想定されるため、経過観察しながら状況に応じて対策を行う必要がある。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	206	道路台帳索引番号	R-37	施設管理者	韮崎市
路線名	市道龍岡 37 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	丸山橋
施設の所在地	下条南割字石宮 995 番地 40 先	起点からの距離		建設年度	1993
供用年度	1993	種別	単純 H 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	23.0		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	G2 桁においてソールプレートが固定側と可動側が反対に溶接されている。 これにより、G1 桁、G3 桁の挙動に追従できずに想定外の応力が発生していることが考えられるため、早期の対策が必要である。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	207	道路台帳索引番号	R-36	施設管理者	荊崎市
路線名	市道龍岡 39 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	中道橋
施設の所在地	下条南割字石宮 852 番地先	起点からの距離		建設年度	1993
供用年度	1993	種別	H 桁橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.9		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	伸縮装置からの漏水は、支承の損傷進行を助長させるため、状況に応じて対策を施すことが望ましい。 橋台に生じているひびわれは前回点検時と比べ進行していないと思われるため、状況に応じて補修する必要がある。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	208	道路台帳索引番号	L-10	施設管理者	韮崎市
路線名	市道中田 53 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	中河原跨道橋
施設の所在地	中田町中条字中河原 1800 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	1998
供用年度	1998	種別	トラス橋	型式	トラス橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	国道 141 号

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	88.8		幅員(車道幅員)	3.0
	施設の構造等	上部工形式	トラス橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	次項詳細図参照		基礎型式	
		橋脚工形式		海岸からの距離	—	

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和3年12月		
	調査結果	・主構部材のリングや鋼製の床版下面、支承部のベースプレートや鋼製脚などに広く塗装の変色や点錆が見られ局部的な塗膜の剥離や表面錆なども生じているが、錆の発生密度は比較的小さく前回点検から著しく進行している様子も見られない。錆の発生状況から判断すると現時点での補修は不要と考えられるが、特徴的な外観で人目を引く構造物であるため、美観上の観点からはなるべく劣化が軽微な内に補修を行っておくことが望ましい。・階段内部の主構部材の上に堆積している鳥のフンは点検の妨げとなり、美観、衛生上も好ましくない。また、放置すると腐		
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。	

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和４年度 ～ 令和１２年度
	内容	５年に１回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和８年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	209	道路台帳索引番号	S-37	施設管理者	荊崎市
路線名	市道龍岡 1 号線	道路種類及び区分	1 級路線	橋梁名	真葛下橋
施設の所在地	下条南割字宮本 147 番	起点からの距離		建設年度	1998
供用年度	1998	種別	鋼橋	型式	桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	B活荷	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	35.5		幅員(車道幅員)	9.8
	施設の構造等	上部工形式	桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台 次項詳細図参照		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年12月	
	調査結果	・耐候性鋼材の主構部材に特に変状等は見られず概ね健全な状態である。・床版下面に生じているひびわれは若材齢時の温度や乾燥等に起因する初期ひびわれであると推察する。施工に由来するひびわれで進行性はあまりないと判断されるが、幅 0.2mm を超えて開口が目立つものは予防保全の観点から注入等により補修しておくことが望ましい。また、歩道部直下のパネルでは遊離石灰の滲出が散見し、前回点検から滲出量が増加している箇所もあるため、今後さらに滲出量が増加したり錆汁の混入が認められるような場合は橋面防水の補修も望まれる。・橋台の	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	210	道路台帳索引番号	K-8	施設管理者	荏崎市
路線名	市道中田 54 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	せせらぎ団地橋
施設の所在地	穴山町字下本田 236 番地 5 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.6		幅員(車道幅員)	8.0
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	損傷がなく健全な状態であるため、定期的な点検を行い変状等が確認された場合は状況により経過観察、補修の判断を行うとよい。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	211	道路台帳索引番号	H-18	施設管理者	荊崎市
路線名	市道清哲 2 号線	道路種類及び区分	2級路線	橋梁名	清哲 2-1 号橋
施設の所在地	青木字下河原 755 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	常光寺沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.7		幅員(車道幅員)	8.4
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、舗装の路面の凹凸に対しては維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	213	道路台帳索引番号	G-19	施設管理者	荏崎市
路線名	市道清哲 10 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	常光寺下橋
施設の所在地	青木字南田（常光寺先）	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格（設計荷重）		橋下条件	常光寺沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.8		幅員(車道幅員)	4.9
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和4年11	
	調査結果	水路側壁上に橋台が設置されており、その水路には損傷が確認されている。 水路側壁の損傷は経過観察でよいと判断するが、比較的損傷程度も大きいいため十分に注意し、状況によっては早期に対策を施す必要がある。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	215	道路台帳索引番号	J-26	施設管理者	韮崎市
路線名	市道神山 39 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	八幡沢橋
施設の所在地	神山町鍋山	起点からの距離		建設年度	1971
供用年度	1971	種別	I 桁橋	型式	桁橋(I 桁(合成))
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	20t	橋下条件	八幡沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.4		幅員(車道幅員)	8.5
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(I 桁(合成))			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	扶壁式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	伸縮装置からの漏水が顕著であり、主桁端部および支承の腐食が進行しているため、状況に応じて補修が必要である。 主桁で遊間異常が確認できるため、詳細調査及び対策を行う必要がある。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (早期処置段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 9 年
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	43.5	30				0.5				
対策の内容・実施時期	補修点検	補修工事				定期点検				

備 考	
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。 ○令和4年度補修	

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	216	道路台帳索引番号	J-27	施設管理者	蕪崎市
路線名	市道神山 39 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	白沢橋
施設の所在地	神山町鍋山	起点からの距離		建設年度	1963
供用年度	1963	種別	RCT 桁橋	型式	桁橋(T 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	白沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.8				幅員(車道幅員)		6.3		
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(T 桁)								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	重力式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 4 年 11 月									
	調査結果	床版は亀甲状にひびわれが進展しており、徐々に広がっていくと考えられる。前回点検時と比べ進行はしていないが、損傷が進行した場合は早期に対策を行う必要がある。 主桁のひびわれについても、幅が大きく桁全体に均等に発現しているため、損傷が進行した場合は早期に対策を行う必要がある。 A2 側支承は、層状剥離し、機能を果たせていないため、構造安全上早急に対処する必要がある。									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)		道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度									
	内容	補修工事を実施。 5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期										
	対策費用 (百万円:概算)										
	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年		
対策費用(百万円)	0.5					50					
対策の内容・実施時期	定期点検					架替工事					

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	217	道路台帳索引番号	K-28	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 39 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	甘利沢橋
施設の所在地	神山町鍋山～上条北割	起点からの距離		建設年度	1964
供用年度	1964	種別	PC 橋	型式	桁橋(T 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	甘利沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	31.7		幅員(車道幅員)	6.2
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(T 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年1月	
	調査結果	・主桁には外観上特筆すべき変状は見られないため比較的健全な状態を保っていると判断される。なお、本橋梁の竣工年から推察すると、主桁のPC鋼材は一部が上縁定着されているものと予想される。この場合、雨水が上縁定着部等を介してシース内に浸入しているとPC鋼材の腐食等が潜在的に生じている可能性もあり、今後これに起因する変状が顕在化すること考えられるため、引き続き注意深い観察と点検が望まれる。・床版の横締め定着部には一部定着金具の露出と表面錆が見られるが、著しい腐食等には至っていないため緊張力には殆ど影響はないもの	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	218	道路台帳索引番号	L-38	施設管理者	韮崎市
路線名	市道旭 90 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	久保橋
施設の所在地	上条南割	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	BOX	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.7		幅員(車道幅員)	22.5
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	PC BOX 形式		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	防護柵、舗装、頂板に損傷がみられるが、いずれも軽微であるため経過観察とする。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	219	道路台帳索引番号	L-35	施設管理者	荊崎市
路線名	市道旭 90 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	大門沢橋
施設の所在地	旭町上条中割鍛冶屋～上条南割	起点からの距離		建設年度	1958
供用年度	1958	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	20t	橋下条件	大門沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.0		幅員(車道幅員)	6.0
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	舗装のひびわれは、一部亀甲状を呈しており、床版に影響を与えていると思われる。 床版の鉄筋露出は前回点検時と比べ進行はしていないが、露出範囲が大きい箇所もあり損傷が進行した場合早期に補修する必要がある。 橋台、橋脚、床版に見られる落書きは維持管理の中で消去されたい。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覧
(個票)

個別施設整理番号	220	道路台帳索引番号	D-3	施設管理者	荏崎市
路線名	市道円野 10 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	円野 10 号橋
施設の所在地	上円井字下古河原 4844 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.7		幅員(車道幅員)	4.2
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 4 年 11 月				
	調査結果	地覆の損傷は防護柵支柱部付近にあるため、安全性の観点より早期に補修すべきである。 床版に生じている剥離は経過観察とし、損傷進行が確認された場合に対処することが望ましい。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容	5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和9年度				
	対策費用 (百万円:概算)	1				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	221	道路台帳索引番号	C-4	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野 22 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	円野 22 号橋
施設の所在地	上円井字石の坪 4614 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.0		幅員(車道幅員)	5.0
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	路面上全体に土砂堆積しており、想定外の荷重が常に載荷されている状況である。早期に取り除くことが望ましい。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	222	道路台帳索引番号	C-5	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野 23 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	円野 23 号橋
施設の所在地	上円井字嶋崎 4590 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.9		幅員(車道幅員)	4.8
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、路面の凹凸に対しては維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	223	道路台帳索引番号	C-4	施設管理者	荏崎市
路線名	市道円野 34 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	円野 34 号橋
施設の所在地	上円井字嶋崎 4576 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	BOX	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.5		幅員(車道幅員)	4.5
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	鉄筋コンクリートBOX		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	路肩部には両側ともに土砂が堆積しており、維持管理の中で撤去する必要がある。 側壁のハンチ下部に比較的幅が大きいひびわれが発生している。緊急性はないものの状況を見ながら対応する必要がある。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	224	道路台帳索引番号	Q-27	施設管理者	荊崎市
路線名	市道荊崎 60 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	荊崎 60-2 号橋
施設の所在地	本町三丁目 2341 番地 5 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.2		幅員(車道幅員)	9.5
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	地覆はフェンス支柱部において大きくひびわれており、安全性に問題があるため、早期の対策が望ましい。 床版の損傷は軽微なため経過観察でよいが、進展が確認された場合には補修を検討すべきである。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.3		幅員(車道幅員)	4.0
	施設の構造等	上部工形式	桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

備 考	
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。	

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	226	道路台帳索引番号	D-11	施設管理者	荏崎市
路線名	市道円野 35 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	戸沢南橋
施設の所在地	入戸野字前田 1125 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	入戸野沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.1		幅員(車道幅員)	6.5
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	フェンス支柱部の地覆に一部損傷がみられるため、経過観察が必要である。 床版に漏水・遊離石灰が確認されているが、軽微な状況であるため経過観察でよい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	227	道路台帳索引番号	J-22	施設管理者	韮崎市
路線名	市道神山2号線	道路種類及び区分	1級路線	橋梁名	美鈴橋
施設の所在地	神山町大字武田字立沢地内	起点からの距離		建設年度	1991
供用年度	1991	種別	鋼橋	型式	桁橋(H桁(合成))
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	20t	橋下条件	堅沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	70.1		幅員(車道幅員)	9.3
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁(合成))			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	主桁・横桁・支承部に腐食、防食機能の劣化が見られ、予防保全の観点から補修が望ましい。歩道部の舗装に対しては維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	228	道路台帳索引番号	H-18	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 2 号線	道路種類及び区分	1 級路線	橋梁名	神山 2-1 号橋
施設の所在地	青木字下河原 769 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	溝橋(カルバート)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	常光寺沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.7		幅員(車道幅員)	9.5
	施設の構造等	上部工形式	溝橋(カルバート)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	鉄筋コンクリートBOX		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、舗装の土砂堆積については維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	229	道路台帳索引番号	G-16	施設管理者	蕪崎市
路線名	市道神山 2 号線	道路種類及び区分	1 級路線	橋梁名	原山橋
施設の所在地	清哲町青木字山田 地内	起点からの距離		建設年度	2004
供用年度	2004	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	市道 清哲 1 号線

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		11.5			幅員(車道幅員)		10.4		
	施設の構造等	上部工形式	床版橋								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
			支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり			
		橋台工形式	逆T式橋台			基礎型式					
		橋脚工形式				海岸からの距離		—			
施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年12月									
	調査結果	・主要部材に特筆すべき損傷は見られず橋梁は概ね健全な状態である。・路面の地覆脇に見られる土砂堆積や草の自生は路面排水の滞水原因となり、下方に水分を供給する要因になるため維持工事による定期的な管理が望まれる。また、歩道部のパラペット後方に生じている舗装の段差は、利用者の安全を維持するためパッチング等で補修しておくことが望ましい。・路面の終点下り線側に円形の細かい5mm未満のひびわれと窪みが見られる。今後ポットホールに進行したり、補修後の再劣化を繰り返すような状況になった場合は、床版上面の土砂化の可能性なども									
	健全性の診断結果	Ⅰ (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容	5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和8年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)						0.5					
対策の内容・実施時期						定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	230	道路台帳索引番号	G-15	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山2号線	道路種類及び区分	1級路線	橋梁名	小桐下橋
施設の所在地	清哲町青木字山田 地内	起点からの距離		建設年度	2005
供用年度	2005	種別	鋼橋	型式	桁橋(H桁(合成))
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	B活荷重	橋下条件	高川南沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	73.2		幅員(車道幅員)	10.0
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁(合成))			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式	鉄筋コンクリート橋脚 1基		海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、舗装の土砂堆積とA2橋台の不法占用に対しては維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	231	道路台帳索引番号	E-12,13	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山2号線	道路種類及び区分	1級路線	橋梁名	新唐沢橋
施設の所在地	清哲町折居字三宮寺地内	起点からの距離		建設年度	1999
供用年度	1999	種別	鋼橋	型式	桁橋(箱桁(合成))
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	B活荷重	橋下条件	唐沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	56.6		幅員(車道幅員)	8.2
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(箱桁(合成))			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	主桁、横桁、支承本体に見られた腐食は予防保全の観点から塗装、金属溶射などの対策を行うことが望ましい。 ただし、舗装、橋座面の土砂堆積は維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	232	道路台帳索引番号	D-9	施設管理者	韮崎市
路線名	市道神山2号線	道路種類及び区分	1級路線	橋梁名	戸沢下橋
施設の所在地	円野町入戸野字上河原地内	起点からの距離		建設年度	2003
供用年度	2003	種別	鋼橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	B活荷重	橋下条件	戸沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	104.2		幅員(車道幅員)	9.8
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式	鉄筋コンクリート橋脚 2基		海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年12月	
	調査結果	・上流側の張出床版部と歩道部直下の G1[sanitize]G2 間の床版下面に著しい遊離石灰の滲出を伴うひびわれが散見する。遊離石灰は一部つらら状で錆汁のような茶色を呈しているものもあり、ひびわれ周囲には黒く湿った跡やスケーリングが見られることから、路面から水が供給されて劣化が進行していると考えられる。滲出している遊離石灰は近傍の主桁フランジ部などにも及んでいて鋼部材の局部腐食の原因にもなっている。水の供給は歩道部あるいは歩車道境界部を介して浸透している可能性が高く、橋面防水の不備、不良が考えられる。このま	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	233	道路台帳索引番号	D-7	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山2号線	道路種類及び区分	1級路線	橋梁名	三井沢橋
施設の所在地	円野町下円井字北幅下地内	起点からの距離		建設年度	2001
供用年度	2001	種別	PC橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	三井沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	18.5		幅員(車道幅員)	8.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・起点側の間詰め床版部で確認されていた遊離石灰の滲出に目立った変化は見られない。若干茶色を呈した状況であるが、上部工全体に対して規模が小さく局部的であるため、今回も経過観察とする。これ以外に主要部材に特筆すべき損傷は見られない。 ・路面の地覆脇に堆積している土砂は路面排水の滞水原因となり、下方に水分を供給して部材劣化を助長する要因となるため維持工事による定期的な清掃が望まれる。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	234	道路台帳索引番号	C-7	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 2 号線	道路種類及び区分	1 級路線	橋梁名	神山 2-2 号橋
施設の所在地	円野町下円野字水無	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.7		幅員(車道幅員)	7.3
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・主要部材に見られる変状はいずれも軽微なもので、概ね健全な状態を保っていると判断される。・下流側の防護柵では起点側のビーム端部が大きく変形して鋭利な状態になっているため、安全上の観点から補修しておくことが望ましい。・路面の地覆脇に堆積している土砂は路面排水の滞水原因となり、下方に水分を供給して部材劣化を助長する要因になるため維持工事による定期的な清掃が望まれる。・A1橋台の堅壁部に伸縮部からの漏水が見られる。本橋はコンクリート構造であり、唯一桁間部に鋼部材としてアンカーバーがあるが、そのほとんどの部分はコ	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	235	道路台帳索引番号	C-5	施設管理者	韮崎市
路線名	市道神山2号線	道路種類及び区分	1級路線	橋梁名	寺沢上橋
施設の所在地	円野町下円野字嶋崎	起点からの距離		建設年度	1999
供用年度	1999	種別	PC橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	寺沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.0		幅員(車道幅員)	8.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・上部工に目立った変状は見られず、概ね健全な状態である。・橋台の堅壁に若材齢時の初期ひびわれとみられる縦方向のひびわれが生じているが、発生間隔も広く堅壁が抵抗する有効断面とは無関係の方向のひびわれと考えられるため当面経過観察とする。・A2下流側の沓座部に見られる土砂と雑草は、草が深く根を張る前に除去しておくことが望ましい。また、路面の地覆脇に見られる土砂堆積や草の自生も路面排水の滞水原因となり、下方に水分を供給する要因になるため清掃が望まれる。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	236	道路台帳索引番号	M-21	施設管理者	韮崎市
路線名	市道藤井 27 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	青坂バイパス跨道橋
施設の所在地		起点からの距離		建設年度	2012
供用年度	2012	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	主要地方道 茅野北杜 韮崎線

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	28.0		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和 7 年 11 月	
	調査結果	A1 橋台、A2 橋台に落書きがあるので、維持工事に対応することが望ましい。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	237	道路台帳索引番号	A-1	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 2 号線	道路種類及び区分	1 級路線	橋梁名	小武川大橋
施設の所在地	下円井字上河原 31 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	2009
供用年度	2009	種別	鋼橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	B 活荷重	橋下条件	小武川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	158.9		幅員(車道幅員)	8.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年12月	
	調査結果	・耐候性鋼材の主構部材に特に変状等は見られず概ね健全な状態である。ただし、フランジ部に散見する動物のフンは放置すると腐食の原因にもなるため維持工事での除去作業が望まれる。・床版下面に広域に発生しているひびわれは若材齢時の温度や乾燥等に起因する初期ひびわれであると推察する。施工に由来するひびわれで進行性はあまりないと判断されるが、遊離石灰の滲出を伴うものもあるため、幅 0.2mm を超えて開口が目立つものは予防保全の観点から注入等により補修しておくことが望ましい。・橋台の堅壁にも初期ひびわれとみられる縦方向のひ	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	238	道路台帳索引番号	P-15	施設管理者	荏崎市
路線名	市道穂坂 99 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	砦橋
施設の所在地	穂坂町三之蔵字トリテ地内	起点からの距離		建設年度	1975
供用年度	1975	種別	PC 橋	型式	桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	中央自動車道

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	39.2		幅員(車道幅員)	3.0
	施設の構造等	上部工形式	桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式			基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	上部工、下部工ともに概ね補修が行われているが、一部補修が行われていない箇所がある。 また、舗装に土砂が堆積している。高欄に落書きがある。維持工事で対応することが望ましい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	補修工事を実施。 5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。
- 令和4年度補修完了

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	239	道路台帳索引番号	R-18	施設管理者	蕪崎市
路線名	市道穂坂 100 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	上の原橋
施設の所在地	穂坂町	起点からの距離		建設年度	1975
供用年度	1975	種別	PC 橋	型式	桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	中央自動車道

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		37.9			幅員(車道幅員)		5.5		
	施設の構造等	上部工形式	桁橋								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式				基礎型式					
橋脚工形式				海岸からの距離		—					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 7 年 11 月									
	調査結果	上部工、下部工ともに補修済であるが、横桁の下面のひびわれが一部補修されていない。 地覆の剥離・鉄筋露出は補修したが、再劣化している。 予防保全の考えから、早期の補修が望ましい。 また、排水樹の土砂詰まりについては、維持工事で対応することが望ましい。									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)		道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度									
	内容	補修工事を実施。 5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和 12 年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					0.5	
対策の内容・実施時期		補修工事			定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。
- 令和4年度補修完了

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	240	道路台帳索引番号	V-21	施設管理者	葦崎市
路線名	市道	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	用の沢橋
施設の所在地		起点からの距離		建設年度	2004
供用年度	2004	種別	鋼橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	用の沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	85.0		幅員(車道幅員)	8.2
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状態 等 の 概要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	床版の張出部につらら状の遊離石灰が見られるため、予防保全の観点から、早期に補修する必要がある。また、P2 橋脚の G2 支承に鳥のふん害があるため、維持工事で清掃する必要がある。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和5年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考	
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。	

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	241	道路台帳索引番号	Q-24,25	施設管理者	荊崎市
路線名	市道荊崎 6 号線	道路種類及び区分	1 級路線	橋梁名	更科歩道橋
施設の所在地	富士見二丁目 1804 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	1999
供用年度	1999	種別	鋼橋	型式	桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	塩川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	145.0		幅員(車道幅員)	3.8
	施設の構造等	上部工形式	桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	鉄筋コンクリート逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式	鉄筋コンクリート壁式橋脚		海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年11月				
	調査結果	添架物のカバーにずれが生じていることから維持工事による対応が望ましい。 その他、床版や橋台、地覆等に損傷が見られるが、状況に応じて補修することが望ましい。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度				
	内容	5年に1回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和11年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0.5				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	242	道路台帳索引番号	O-30	施設管理者	荊崎市
路線名	市道大草 2 号線	道路種類及び区分	1 級路線	橋梁名	古川 10 号橋
施設の所在地	若尾字仲田 1646 番地先	起点からの距離		建設年度	2019
供用年度	2019	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	古川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.9		幅員(車道幅員)	4.0	
	施設の構造等	上部工形式	床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり	
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり		
		橋台工形式				基礎型式	
	橋脚工形式				海岸からの距離	—	
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 5 年 12 月					
	調査結果	軽微な損傷はあるが、概ね健全である。					
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度					
	内容	5年に1回の定期点検を行う。					
	実施予定時期	令和 12 年度					
	対策費用 (百万円:概算)	0.5					

[illegible]

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	243	道路台帳索引番号	Q-36	施設管理者	韮崎市
路線名	市道大草 45 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	丸林上橋
施設の所在地	大草町下条中割	起点からの距離		建設年度	2015
供用年度	2015	種別	鋼橋	型式	桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	20.4				幅員(車道幅員)		5.0		
	施設の構造等	上部工形式	桁橋								
			鋼製(使用鋼材)		別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり		
			支承型式		別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり		
		橋台工形式	重力式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月									
	調査結果	損傷は軽微であり、概ね健全である。									
	健全性の診断結果	Ⅰ (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容	5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和12年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)					0.5					0.5	
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検	
備 考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	244	道路台帳索引番号	P-36	施設管理者	韮崎市
路線名	市道大草 55 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	割羽沢川 4 号橋
施設の所在地	大草町下条中割	起点からの距離		建設年度	1988
供用年度	1988	種別	PC 橋	型式	桁橋(H 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	割羽沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.9				幅員(車道幅員)		2.0		
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	重力式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 7 年 11 月									
	調査結果	主桁、横桁の腐食、塗装劣化は、予防保全の観点から速やかに補修を行う必要がある。橋台の残置物は、維持工事に対応する必要がある。他の損傷は状況に応じて補修を行う必要がある。									
	健全性の診断結果	I (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度									
	内容	5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和 12 年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					0.5	
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検	
備 考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	246	道路台帳索引番号	O-30	施設管理者	葦崎市
路線名	市道大草 14 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	古川 12 号橋
施設の所在地	大草町若尾	起点からの距離		建設年度	2023
供用年度	2023	種別	PC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	A 活荷重	橋下条件	古川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.5		幅員(車道幅員)	3.1
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和 7 年 11 月	
	調査結果	2022 年 11 月に架設した橋梁で損傷はなく、健全な状態である。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備 考	
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。	

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	247	道路台帳索引番号	O-30	施設管理者	葦崎市
路線名	市道大草 47 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	古川 11 号橋
施設の所在地	大草町若尾	起点からの距離		建設年度	2020
供用年度	2020	種別	PC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	A 活荷重	橋下条件	古川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		8.9			幅員(車道幅員)		3.2		
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)		別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり		
			支承型式		別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり		
		橋台工形式	逆T式橋台			基礎型式					
		橋脚工形式				海岸からの距離		—			
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月									
	調査結果	2020年8月に架設した橋梁で損傷はなく、健全な状態である。									
	健全性の診断結果	Ⅰ (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容	5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和12年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)					0.5					0.5	
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	248	道路台帳索引番号	V-14	施設管理者	蕪崎市
路線名	市道穂坂 96 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	無名2号橋
施設の所在地	穂坂町宮久保	起点からの距離		建設年度	1973
供用年度	1973	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	権現沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.1		幅員(車道幅員)	3.0
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式		海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	・RC製高欄の経年劣化がやや目立ち、化粧モルタルにはひびわれや剥離が散見する。また、地覆と床版との境界部からは遊離石灰の滲出が目立つ。構造的な影響は考えにくい、一見すると橋の老朽化が進行しているように見えて利用者に与える印象は良くない。さらに、伸縮部には漏水の形跡があり、沓座周辺や沓座に堆積した土砂が湿っている。部材に水分が供給されると、上記遊離石灰の進行や内部鉄筋の腐食等に繋がる可能性もある。美観および予防保全的な観点から適宜補修を行っておくのが望ましい。各所に堆積した土砂は維持工事により除去しておく必要がある。24	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 9 年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。